

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101448		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホーム フェニックスの里		
所在地	〒751-0887 山口県下関市大字小野64番地の1 Tel 083-263-2088		
自己評価作成日	令和06年07月25日	評価結果市町受理日	令和06年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年10月07日	評価結果確定日	令和06年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は市街地から少し離れた里山に位置しているため、山間の野鳥の囀りや季節の移ろいを肌で感じられる環境において心穏やかに生活できる空間が提供できるように力を入れています。
春夏秋冬それぞれの季節に応じた行事、外出行事を行っています。また同一敷地内には特養、障害、デイサービス、託児所が併設されており、各事業所合同で行うフェニックス祭り、文化祭等を通じて地域の住民や小さなお子様との交流を図っています。同時に近隣の高校生のインターンシップの受け入れやよしみず病院付属看護学院の学生の実習(年5回、通算15日)を通して外部の方々と関わりを持つ機会を設けています。コロナも5類に移行になったことから今年度より、自粛していたドライブや外出行事も徐々に増やしており、気分転換を図るとともに生活に彩りが加えられるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の目の前に山陽新幹線が行き来し、敷地内の桜並木が美しい自然豊かな環境の中に22年前に開設した、定員9名のアットホームな雰囲気グループホームである。敷地内に、特養、障がい、デイサービス、託児所を併設し、研修や委員会活動、避難訓練、行事を合同で行う等、連携を図りながらサービスの質の向上に向けて全体で取り組んでいる。常勤看護師を配置し、母体医療機関、ホーム協力医との連携で安心の医療体制が整っている。ほとんどの職員が介護福祉士の資格を持ち、風通しが良く働きやすい雰囲気の中、スキルの高い職員が定着している。月2回の生け花教室やドライブ等の外出行事を再開して利用者の生き生きとした暮らしを支援し、「フェニックスの里だより」で利用者の笑顔を伝え、家族の安心に繋げている。「心優しい職員が親身にケアしてくれていて感謝している」と、家族の信頼も厚い「グループホーム フェニックスの里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	受付に理念を掲示している。定例会議やミーティング等で、理念の共有を図り、理念に沿った支援を心がけ、地域密着型サービスの意義を理解するよう努めている。	「地域との縁系を図り、自立支援を目指し、利用者同士がともに支え合う関係作りに取り組む」を運営理念とし、玄関受付に掲示し、パンフレットや「フェニックスの里だより」にも掲載して周知に努めている。職員は、常に目にすることで理念を共有し、理念に沿った介護サービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より例年通りの活動を再開している。地域の文化祭やお祭り、認知症カフェなどの参加を再開している。	新型コロナ5類移行に伴い、少しずつ地域交流を再開している。看護学生の実習受け入れは継続して行っており、ハロウィンには併設託児所の子ども達との交流も計画されており、利用者の楽しみとなっている。10月に行われるフェニックス祭りや外部の認知症カフェへ参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに利用者と一緒に参加する事や、運営推進会議で地域の方々に参加していただき入居者の生活状況を報告し、認知症の理解や支援のあり方など話す機会を持つことができている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が評価項目について自己評価を行い、取り組み方など振り返っている。外部評価後に定例会議で評価の結果について話し合い、指摘されたことなど検討し改善に取り組んでいる。	管理者は職員一人ひとりに外部評価の意義や目的を説明し、自己評価表を配って記載してもらい、管理者がまとめて提出している。自己評価に取り組む事は、これまで積み重ねてきたことを改めて振り返る機会となっている。評価結果については職員間で話し合い、ホーム運営や業務改善に反映できるように取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者の状況、日々の活動内容、今後の活動予定など報告し、意見交換を行いながら、改善が必要な事など話し合い実施している。同時に行政、地域包括、民生委員との意見交換をすることで地域との地域との連携を深めサービスの向上に努めている。	会議は奇数月に年6回開催し、自治会会長、副会長、民生委員、介護保険課、地域包括支援センター職員の参加を得ている。利用者状況や日々の活動、職員体制、行事予定について報告し、参加委員から、意見や質問、情報提供を受けて話し合い、出された意見を検討してサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議での意見交換、疑問点や相談事などあれば直接出向き助言して頂くなど協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とも運営推進会議などで、情報を得るなど連携を図っている。	管理者は、行政窓口疑問点や困難事例について相談を行い、アドバイスや情報提供を受け協力関係を築いている。運営推進会議に介護保険課職員や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの運営や取り組みを伝え、情報交換しながら連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関わるマニュアルについての周知や、関連する研修などで学習し、全員が理解し防止に努めている。新規採用職員には、身体拘束に関する研修を実施している開設以来、身体拘束の実施はなし。また管理者が法人内の身体拘束廃止・虐待防止委員会に出席し議事内容を職員に報告している。	月1回法人で開催される「身体拘束廃止委員会」に管理者が参加して、内容を会議の際に職員に報告している。身体拘束の職員研修を年2回は必ず実施して、拘束が利用者に及ぼす弊害について職員間で話し合い、薬や言葉の抑制も含めた身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修を行い全職員が理解し防止に努めている。新規採用職員にも必ず研修を行い虐待防止の徹底を図っている。何気ない言動が虐待に繋がらぬよう職員同士が注意し合える環境、関係性を築き見過ごされることがないように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての資料を用いて研修を実施するなど、学ぶ機会を持っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には、契約書・重要事項説明書等を用いて十分説明し、理解していただき同意の上行っている。改定があれば、ご家族に直接電話で説明し、来設時に再度改定内容など説明し同意を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情受付窓口の担当者、行政、国保連の連絡先等を重要事項説明書に明示し、契約時に説明している。ご家族へ連絡した際や、来設された際にも意見等を聞き、運営に反映できるよう努めている。玄関に意見箱を設置して広く忌憚のない意見を求めている。	職員は利用者の意見や要望を聴き取り、出来る事から取り組んでいる。家族と話し合う機会を設け、利用者の健康状態や生活状況を報告し、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、職員間で話し合い、ホーム運営や介護サービスに反映させている。また、利用者の笑顔の写真をたくさん載せた「フェニックスの里だより」を送付し、家族の安心に繋げている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員定例会議で意見や提案を聞き、法人の職員代表者会議にて報告し、反映できるよう努めている。また個人的な意見などあれば個別面談にて聞く機会を設けている。	月1回定例会議を開催し、職員の意見や要望、提案等を聴き取り、ホーム運営に反映させている。また、年2回個人面談を実施し、希望や意見、気になること等を聞いて運営や業務に反映し、職員が働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、有休取得、退社時間の遵守などの職場環境、条件の整備に努め、また、適材適所に配置し各自がやりがいを持って働けるよう役割分担や業務担当を決め職務にあたっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度末に、来期に学びたい研修内容のアンケートを取っている。研修担当者を決め、担当者自らが資料を準備するなどし、毎月研修に取り組んでいる。外部研修では、参加者に研修報告書を提出してもらい、研修資料を基に他職員にも学ぶ機会を設けている。	内部研修の年間計画を立て、担当者を決めて毎月研修を行っている。医療的な事は看護師が担当し、職員一人ひとりが医療的な知識の習得と介護技術の向上に取り組んでいる。また、職員の資格取得を奨励し、バックアップ体制も整えている。	現在、人員不足から、外部研修を受ける機会が少なくなっている。管理者や看護師以外の職員も外部研修を受けることが出来るよう、機会の確保を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所の職員とは法人内研修や法人内行事において交流を深め情報交換に努めている。また市内の学生のインターンシップ受け入れや、看護学生の実習受け入れなど交流する機会を持ちサービスの質向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの生活歴、職歴、趣味などの聞き取りをしっかりと行っただけで新しい環境に慣れていただけるよう担当職員のみでなく、全職員で情報共有をしている。積極的に触れ合う時間を持ち、環境の変化による不安を少しでも緩和できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメント時には必ず本人・ご家族の意見や要望を聞き、介護計画に反映させている。入居後にもご家族と連絡をとり、状況報告をしたり、新たな意向がないか確認するなど、信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人の状態や家族環境など、担当ケアマネや相談員などから情報を収集し、他のサービスが必要な場合は、様々なインフォーマルなサービスを含め、法人内で対応できる体制をとっている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、おやつ作りをしたり、ソファやテーブル席に一緒に座って談笑したりと、暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診では、緊急時以外は可能な限り家族にお願いしている。家族との受診や外出時には一緒に外食するなど、家族と過ごせる時間が取れるよう配慮している。コロナが5類に移行した現在は墓参り、外食、コンサートなど家族、本人の要望に応えることが出来ている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度に入り、外出行事を再開した。墓参りや家族との外食などで関係性の継続を図っている。機をみて買い物なども計画したい。またご家族にも参加してもらえる外出行事も企画したい。	コロナ状況を判断しながら面会制限を緩和し、家族との外出、外食等、楽しいひと時を過ごしてもらっている。また、電話や手紙で交流する機会を設け、ホームへの入居によって利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関わりが途切れないように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や生活習慣を把握し、利用者同士の関係性を考慮しながら、関わり合い支え合える関係づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談があれば可能な限り対応している。移設後も相談員からの情報の求めに応じ、経過を確認するなど支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を聞くとともに、日々の生活の中での言動や表情など観察、気づきなど記録し、定例会議でのカンファレンスで検討している。	日常の関わりの中で、常に声掛けをして本人の希望や思いを聴きだし、定例会議の中で共有、検討している。意向表出が困難な利用者については家族に相談し、職員間で話し合い、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、関係者から生活歴、生活習慣や生活環境等の情報収集を行い、入居後も家族・職員相互間で把握できるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活において観察し記録を取り現状を理解し、また定期的にアセスメントをして心身の状態や変化などの把握に努めており、できることはご自分でしていただきながら支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会議でのカンファレンスで利用者の状態や、課題目標の実施状況や達成状況、新たな課題・問題点など話し合っている。家族の希望や意向も来訪時や電話にて聞き取り、課題や目標など介護計画に反映している。	担当職員は利用者や家族とコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り、定例会議でのカンファレンス、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に日々記録し、必要事項を朝夕の申し送りで伝達している。申し送りノートの活用やカンファレンスにて職員間で情報を共有し、支援内容や課題など介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適時カンファレンスを行い、状況の変化など確認し、新たなニーズには、その都度検討し、そのニーズに応じた支援が行えるよう努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容の利用や、施設周辺の散歩、保育所の園児達との交流など楽しみのある暮らしを支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、訪問診療時は事前に電話やファックスで状況報告や相談をしている。専門医受診が必要な場合は、協力医療機関に受診調整を依頼したうえで家族に状況説明し受診するなど対応している。	入居時に利用者や家族と話し合い、協力医療機関が主治医となっている。月2回の訪問診療の他、夜間や緊急時には主治医と連絡を取りながら指示を得て、救急搬送などの対応に取り組んでいる。他科受診については、家族の協力を得ているが、必要に応じて職員が対応し情報を共有している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の状態を看護職員に伝え、看護職員は協力病院と連携しつつ介護職員に指示や助言をして入居者の健康管理を協同で行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院側へ状況説明や情報提供など対応している。退院に向けての地域連携室との情報交換、現状確認や退院後の留意点等の聞き取り、早期退院に向けた支援をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設の方針を説明している。職員間でも情報を共有し、状態が変化した時や重度化した場合は、本人・家族、主治医等関係者と話し合い、事業所でできる事を十分説明し、本人・家族の望む方針に沿った支援を行っている。	「重度化した場合における対応について」を基に、契約時に利用者や家族にホームの方針を説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと家族と密に連絡を取りながら主治医も交えて方針を確認し、利用者にとって最善の場所はどこなのか、他施設への移設や医療機関への入院も含めて検討している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ひやりはっと、事故発生時には、状況や対応の経緯、原因や今後の対応策について報告書を作成している。1ヶ月後の定例会議で振り返りをし、対応策の評価を行い再発防止に努めている。事故発生時に慌てる事のないよう、緊急時の対応や応急処置などの研修や訓練を行っている。	事故防止と発生時の対応をマニュアル化し、BCP(業務継続計画)を作成して、事故防止、事故発生時に備えた体制を整えている。ひやりはっと、事故報告書を作成し、職員間で内容を共有して再発防止に取り組んでいる。	ひやりはっとと事故報告書の書式が同じなので、ヒヤリハット報告書の提出が少ない。ちょっとした気づきを気軽に書ける書式に変更する等、ヒヤリハットがたくさん出るような工夫を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や避難に関する研修や、緊急連絡網訓練、災害時の避難誘導訓練を行っている。法人内の他事業所・消防署・地域住民の協力が得られる体制を築いている。	法人全体で年2回避難訓練に取り組み、通報装置や消火器の使い方を確認し、非常口、避難経路、避難場所を確保し、利用者全員が安全に避難できる体制を整えている。BCP(災害対策)を作成して、非常時の対応をシュミレーションし、何回も実践して、非常時に職員が冷静に対応出来るように訓練している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、更衣などは可能な限り同性での介助で行い、一人ひとりの人格やプライバシーを尊重した対応を心掛けている。不適切な言動や対応があれば、職員間で注意し合い、定例会議や申し送り時に話し合っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを守る介護のあり方を職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意している。また、入浴や排泄、更衣については出来るだけ同性介助を行っている。利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、好きな事、やりたい事など思いや希望を問いかけている。意思表示の困難な方には、表情や行動を観察しながら、本人の思いが汲み取れるよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れ、時間帯はおおよそ決まっているが、自由時間などは、昼寝やテレビ観賞など、一人ひとりの生活習慣やペースを大切に、無理強いすることなく、その人らしい過ごし方ができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、好みに合わせてカットして頂いている。その時々合った洋服を自分で選択したり、職員と一緒に化粧やネイルをしたり、おしゃれが楽しめるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや食器並べ、盛り付け、食後の下膳、食器洗いなど個々で出来る事を一緒にに行い、食事の時間が共有できるよう支援している。	法人内セントラルキッチンから拠点施設の厨房に運ばれた配食を利用している。利用者はテーブル拭きや盛り付け、食後の下膳、食器洗い、食器拭き等を一緒にに行い、楽しい食事の時間を共有している。いつもの料理をお弁当風に盛り付けたり、パンケーキを焼いたり、少しでも食事が楽しめるよう工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスを考え用意した献立のもと食事を提供している。毎日の食事量、水分摂取量を記録し観察し、食事摂取量や体重増減など変化があれば、主治医に相談し指導を受けている。摂取量によっては栄養補助食品など取り入れ、栄養バランスをとっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、就寝前には口腔洗浄を行うとともに、義歯を預かり消毒洗浄し衛生管理をしている。口腔内に異変があれば、歯科医師や歯科衛生士に伝え、適切な治療や口腔ケアの指導を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護チェック表に排泄状況を記録し、排泄パターンを把握し、利用者に応じて声かけや誘導をしながら、排泄の自立支援を行っている。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間は利用者の体調や希望を聴きながらトイレ誘導やオムツ、リハビリパンツ、パット等を使い分け、利用者が快適に過ごせる支援に取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取の工夫、運動時には腹部マッサージなど行い、適時排泄誘導をしている。また便秘が疑われる時には、牛乳やオリゴ糖の飲用をして自然排便を促している。無排便が続いた際は主治医に相談し指示を受け緩下剤を使用するなど対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定日を決めてはいるが、本人の希望や体調により、曜日や時間を変更するなど柔軟に対応している。基本的にマンツーマンで入浴介助をおこなっており、体調や状態によってはシャワー浴や清拭の対応も行っている。	入浴は利用者の希望や体調に合わせてながら週2回の入浴が基本となっている。利用者一人ひとりに合わせて湯の温度を設定し、マンツーマンで湯船にゆっくり浸かったりシャワー浴等利用者に合わせて支援している。入浴拒否の利用者には、時間を変更したり、職員が変わって声掛けし、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の睡眠状況、排泄状況などチェック表に記載している。状況に応じて昼寝時間や、日中の活動量など工夫しながら、心地良い休息や睡眠に繋がるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに薬情報を閉じ、職員がいつでも確認できるようにしている。体調不良時には主治医や看護師に状態を伝え処方してもらっている。また、服薬ミスが起こらないように、毎朝の服薬セット後にダブルチェックを行い、服薬時は指さし呼称確認を必ず行い、誤薬防止に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や職歴、生活習慣など情報収集し、やりがいや喜びを感じて頂く事ができるよう、一人ひとりの役割を日々の活動に取り入れ、充実した日々が送れるよう努めている。	利用者の心身の機能に合わせて洗濯物干しやたたみ、モップ掛け、食事の盛り付けや後片付け等の役割をお願いしている。月2回の生け花教室や不定期の書道教室、外気浴や散歩、ドライブ等、利用者が生き生きと笑顔で毎日を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺を散歩したり、玄関前にベンチを置き、全員でお茶を飲んだりと外出気分を少しでも感じて頂けるように支援している。今年度より外出行事も再開しており、天気の良い日に景色のいいところにドライブに行き気分転換を図っている。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら外出レクリエーションを再開し、人混みを避けて景色の良い場所や名所巡りをして利用者の生きがいに繋がる外出支援に取り組んでいる。気候の良い時期には、敷地内の散歩や外気浴を楽しみ、気分転換を図っている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で行っている為本人の手持ちは無いが、コロナ禍以前は外出時に買い物をする時には、職員が援助しながら、できる限り支払いはして頂き、お釣りやレシートをいただく事で、今までの生活習慣が継続して行えるよう支援していた。今年度は買い物などの外出行事を再開予定。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や、家族に連絡した際には、本人に代わり話をしていただいたり、手紙や年賀はがきなど希望に応じて準備したり、返事を代筆したりと、やり取りができるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花や皆で作った作品、行事写真など飾っている。施設内はLED電球で暖色系に調整したり、温湿度計を置いたり、冬季には加湿器を設置し室内環境を整え、快適な生活が送れるよう工夫している。	広々として明るい共用空間には、季節の花や実習生と一緒に作ったカレンダーや壁紙、「フェニックスの里だより」行事の写真等を掲示している。清掃が行き届き、温度、湿度、照明の調整や換気等も小まめに行い、利用者が快適に過ごせるように取り組んでいる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食席に自由に好きな場所に座り、気の合った者同士が会話を楽しんだり、独りでのおんびり過ごしたりする空間をつくり工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居中でも、本人や家族と相談しながら、家族写真や使い慣れた物、愛着のある物など準備していたき、居心地よく過ごせるように工夫している。	入居時に利用者や家族と話し合い、馴染みの家具や寝具、仏壇、家族の写真、テレビ等を持ち込んでもらい、その人らしい部屋となるよう配慮しながら、利用者が安心して穏やかに暮らせる居心地の良い居室作りに取り組んでいる。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせるようバリアフリーの床と各所に手すりを設置している。一人ひとりの残存機能に合わせ、安全に自立した生活が送れるよう支援している。		